令和８年11月18日
文教・福祉常任委員会資料
教育部学校教育課

令和８年度全国学力・学習状況調査の結果について

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査の対象

小学校６年　原則として全児童
中学校３年　原則として全生徒
※　小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。
ア　下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒
イ　特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

３　調査内容

（１）　教科に関する調査
ア　小学校調査は、国語、算数の２教科
イ　中学校調査は、国語、数学、英語の３教科
ウ　出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とする。

（２）　質問調査
ア　学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する児童生徒に対する質問調査
イ　学校に対する質問調査

４　調査方式

悉皆調査
・国語・算数（数学）・・・ＰＢＴ（Paper Based Testing）
・英語・児童（生徒）質問調査・・・ＣＢＴ（Computer Based Testing）

５　調査実施日

令和８年４月２３日（木）　国語・算数（数学）
令和８年４月２０日（月）～２３日（木）英語（聞く・読む・書く）・生徒質問調査
令和８年４月２４日（金）～５月８日（金）児童質問調査
令和８年４月２４日（金）～５月２９日（金）英語（話す）

６　調査を実施した学校数及び児童生徒数

	小学校		中学校	
	実施学校数	児童数	実施学校数	生徒数
宇治市	20校	1,329人	10校	1,304人
全国（公立）	18,126校	922,411人	9,249校	841,873人

※　４月２３日に調査を実施した児童生徒

7　IRT について

・児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。
・項目反応理論(Item Response Theory)。
・異なる問題からなるテストの結果や、異なる集団で得られたテストの結果を互いに比較することができる。
※PISA、TOEIC・TOEFL 等の英語資格・検定試験、医療系大学間共用試験等で採用されている。

※IRT スコア
問題の難易度、正誤パターンの状況等から推定し、500 を基準にした得点で表示。
理想的な正規分布の場合、平均 500、標準偏差 100 となる。実際の各生徒のスコア状況により変動。
（「令和８年度全国学力・学習状況調査」担当者会議資料より抜粋）

8　教科に関する調査結果（小学校）

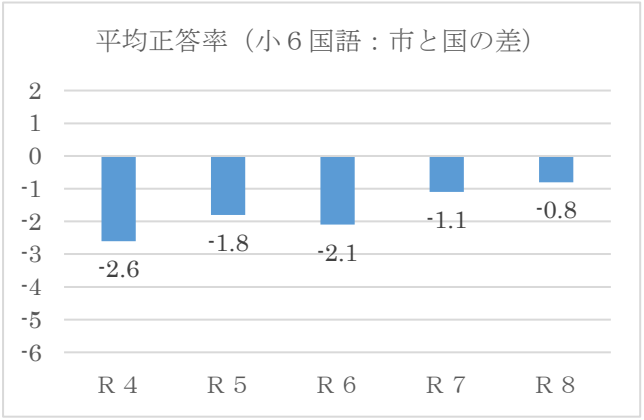
（１）令和８年度調査結果

小学校　教科に関する調査の平均正答率・平均正答数（小学校）

科目	区分	平均正答率（%）	平均正答数/全問数（問）
国　語	宇治市（公立）	60.1	7.8/13
	全　国（公立）	60.9	7.9/13
算　数	宇治市（公立）	55.2	8.8/16
	全　国（公立）	56.4	9.0/16

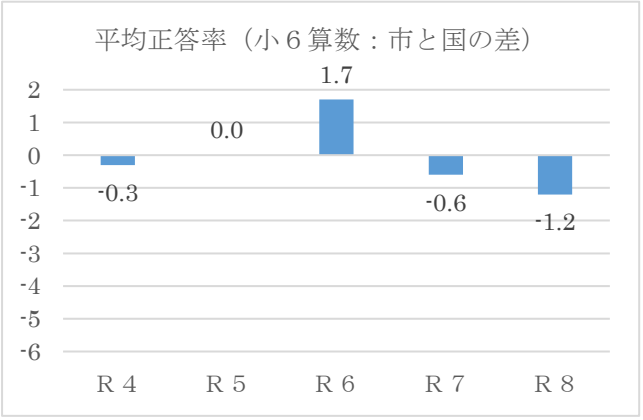
（２）各教科別の調査結果の経年変化

ア　国語（小学校）　過去４年間の国語科平均正答率 市と全国の差推移



	R４	R５	R６	R７	R８
宇治市	63.0	65.4	65.6	65.7	60.1
全国	65.6	67.2	67.7	66.8	60.9
市と国の差	-2.6	-1.8	-2.1	-1.1	-0.8

イ　算数（小学校）　過去４年間の算数科平均正答率　市と全国の差推移



	R４	R５	R６	R７	R８
宇治市	62.9	62.5	65.1	57.4	55.2
全国	63.2	62.5	63.4	58.0	56.4
市と国の差	-0.3	0.0	1.7	-0.6	-1.2

9　教科に関する調査結果（中学校）

（1）令和８年度調査結果

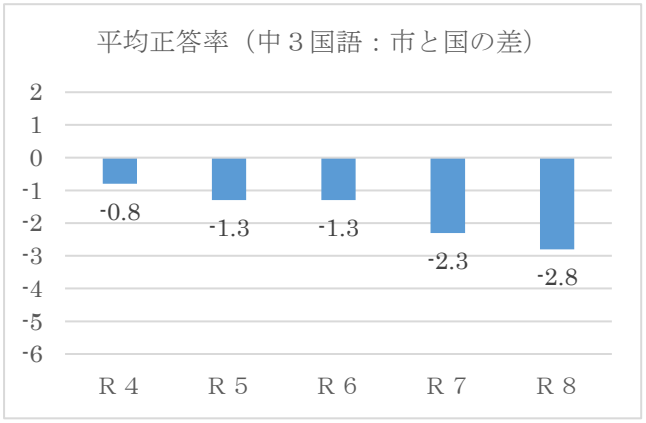
中学校　教科に関する調査の平均正答率・平均正答数

科目	区分	平均正答率（%）	平均正答数/全問数（問）
国　語	宇治市（公立）	61.1	9.2/15
	全　国（公立）	63.9	9.6/15
数　学	宇治市（公立）	54.8	8.8/16
	全　国（公立）	57.0	9.1/16

科目	区分	IRT スコア
英語	宇治市（公立）	482
	全　国（公立）	499

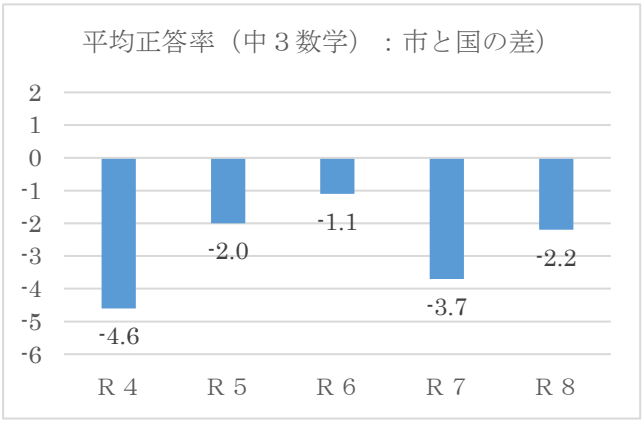
（2）各教科別の調査結果の経年変化

ア　国語(中学校)　過去４年間の国語科平均正答率 市と全国の差推移



	R４	R５	R６	R７	R８
宇治市	68.2	68.5	56.8	52.0	61.1
全国	69.0	69.8	58.1	54.3	63.9
市と国の差	-0.8	-1.3	-1.3	-2.3	-2.8

イ　数学（中学校）　過去４年間の数学科平均正答率　市と全国の差推移



	R４	R５	R６	R７	R８
宇治市	46.8	49.0	51.4	44.6	54.8
全国	51.4	51.0	52.5	48.3	57.0
市と国の差	-4.6	-2.0	-1.1	-3.7	-2.2

１０　授業改善に関わる質問調査

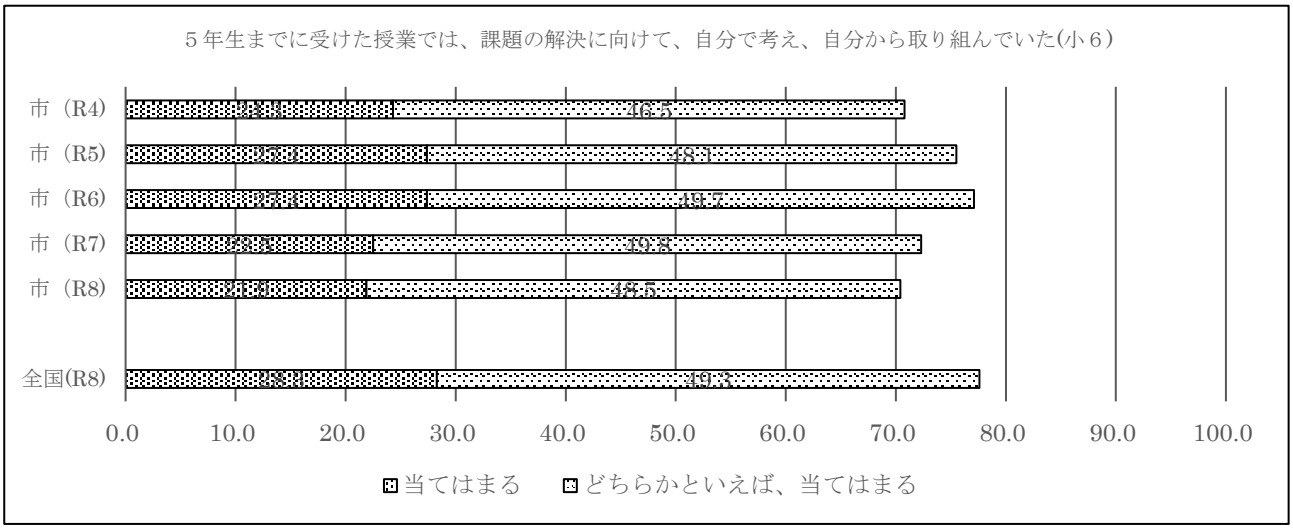
宇治市「みんなの学びプロジェクト」の評価指標結果（肯定的回答）

	小　学　校					中　学　校				
	R7 宇治市	R8 宇治市	R8 全国	前年度 との差	全国 との差	R７ 宇治市	R８ 宇治市	R８ 全国	前年度 との差	全国 との差
(1)主体的に学習	72.3	70.4	77.6	−1.9	−7.2	71.4	70.8	78.8	−0.6	−8.0
(2)発表工夫	66.0	66.7	66.4	+0.7	+0.3	55.3	55.6	65.5	+0.3	−9.9
(3)話し合う活動	80.3	81.1	85.8	+0.8	−4.7	81.2	81.9	87.0	+0.7	−5.1
(4)まとめる活動	66.1	64.3	73.4	−1.8	−9.1	59.9	60.6	70.8	+0.7	−10.2
(5)信頼関係	61.3	62.5	70.6	+1.2	−8.1	66.3	66.4	71.9	+0.1	−5.5

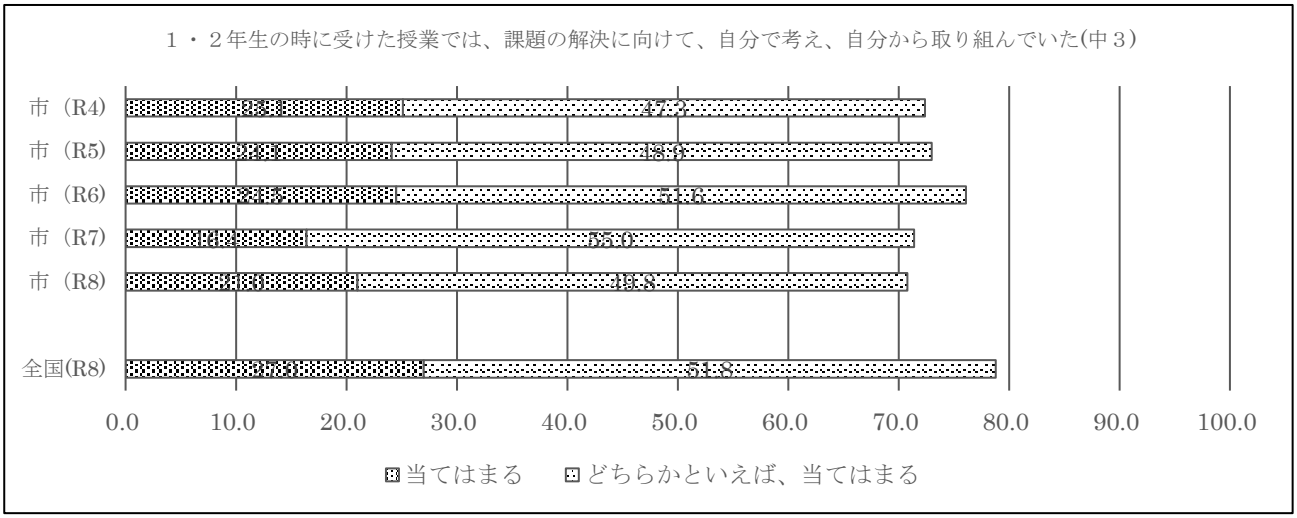
※目標値は、その年のそれぞれの項目の肯定的回答割合の全国平均を上回ることを目標としている。

（1）【主体的に学習】課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

【小学校】

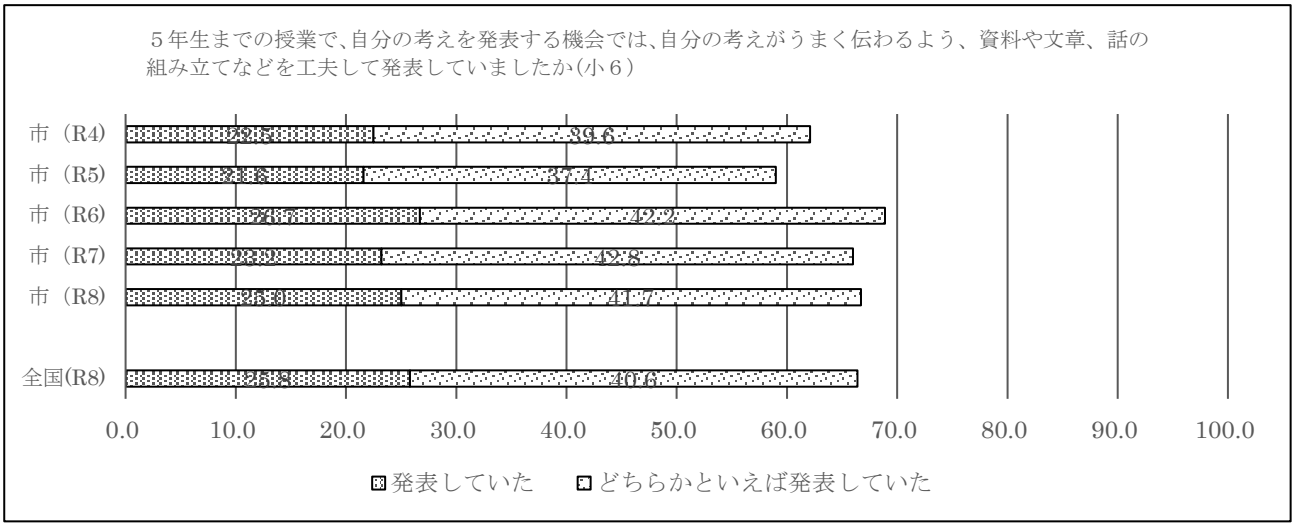


【中学校】

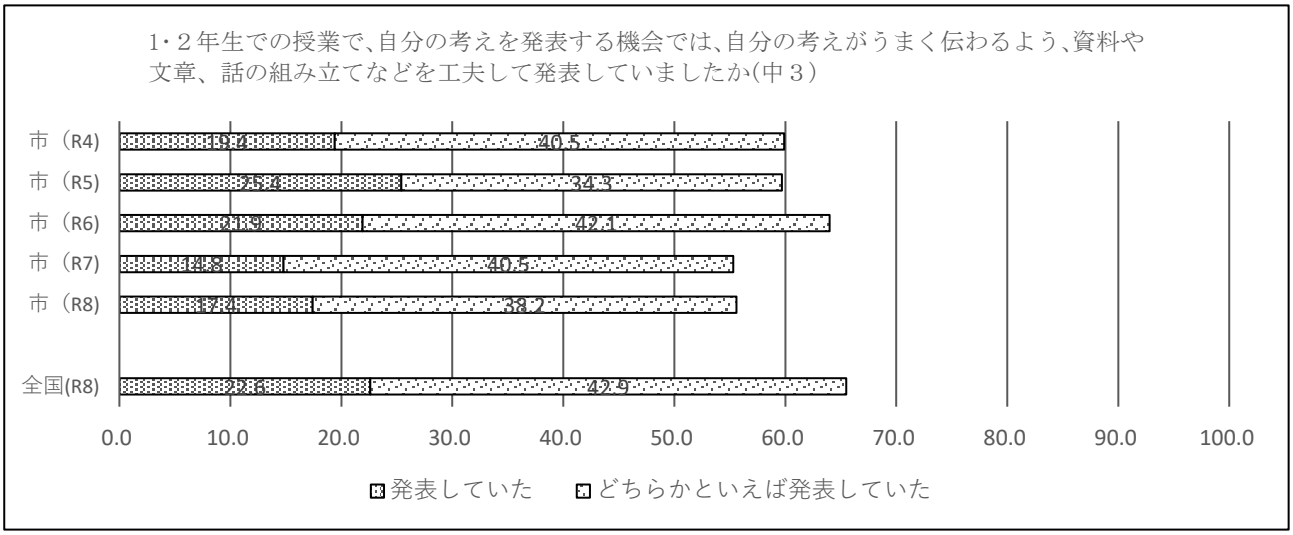


（2）【発表工夫】　自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

【小学校】

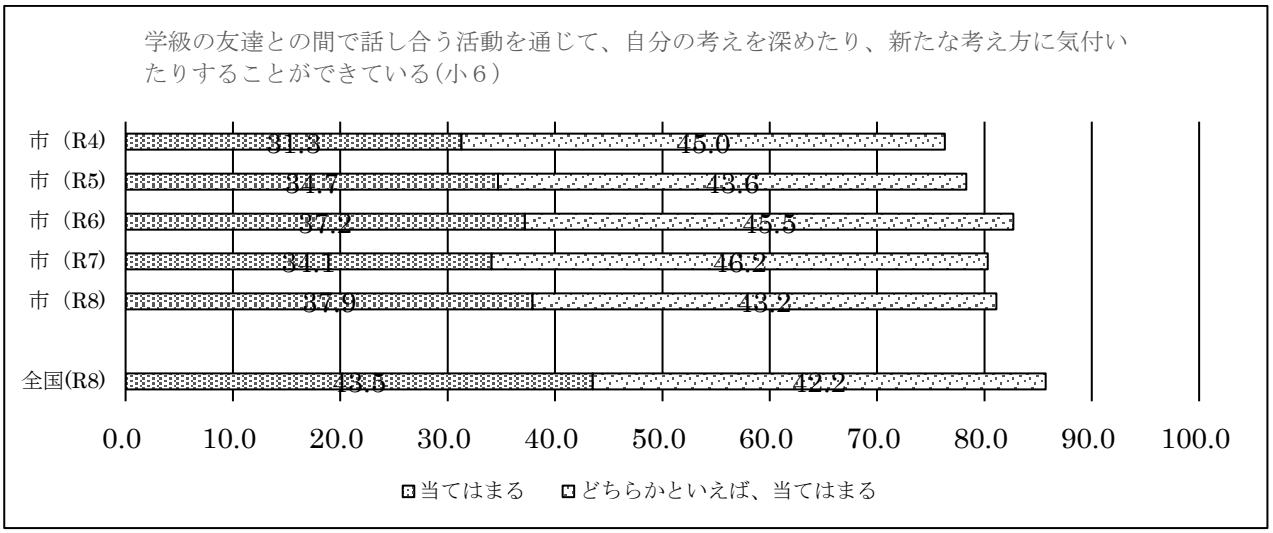


【中学校】

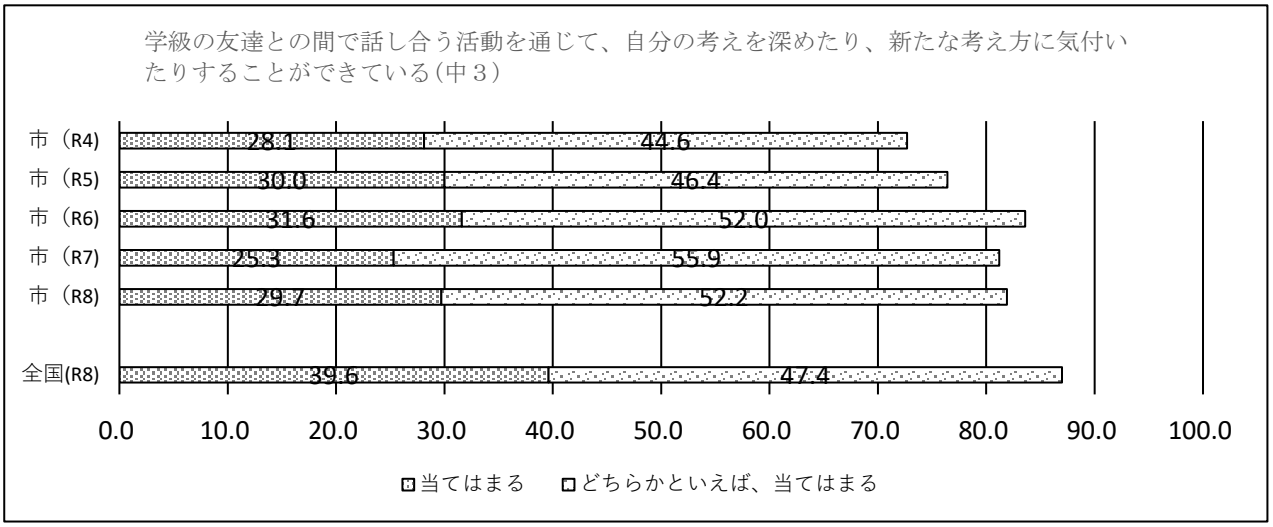


（3）【話し合う活動】学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

【小学校】

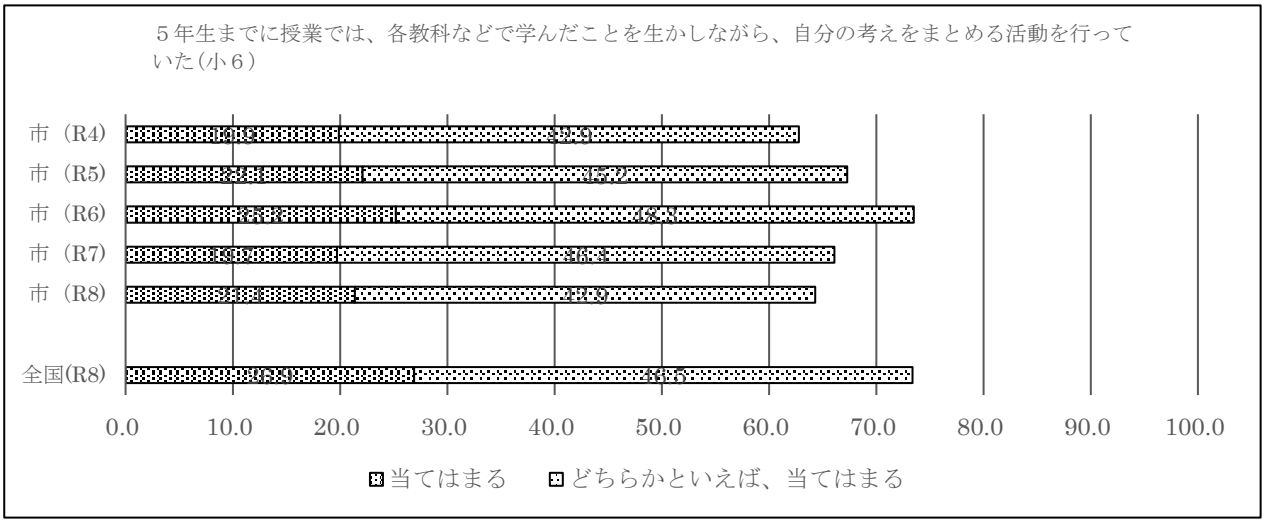


【中学校】

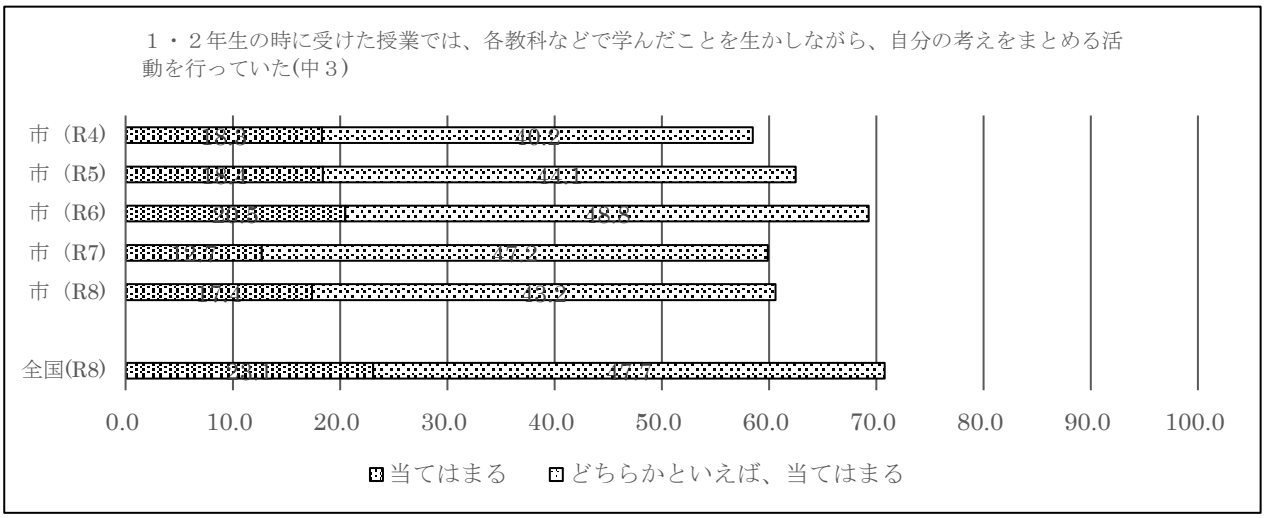


（4）【まとめる活動】各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

【小学校】

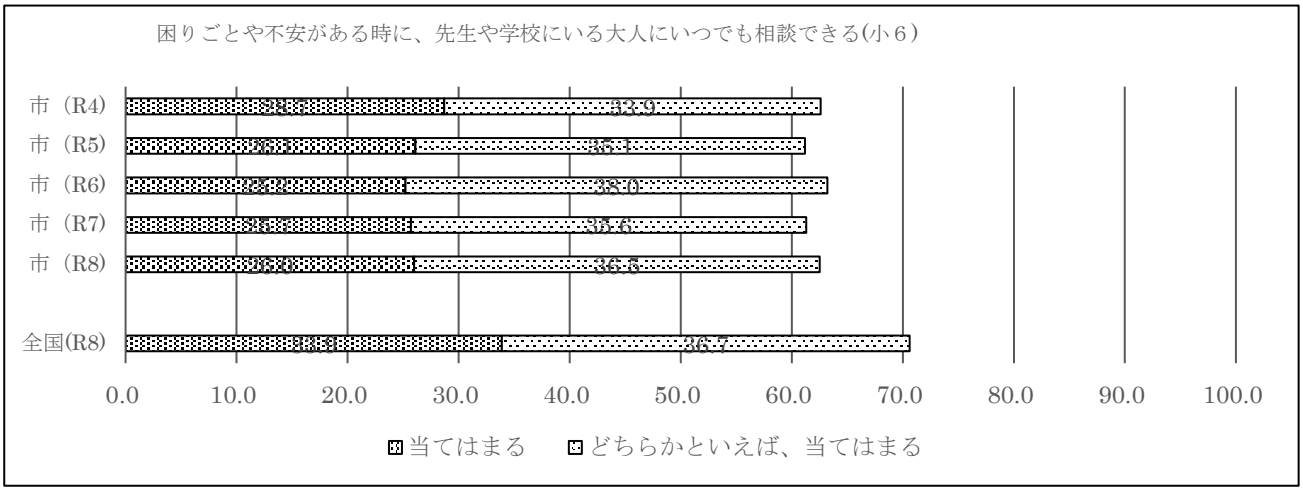


【中学校】

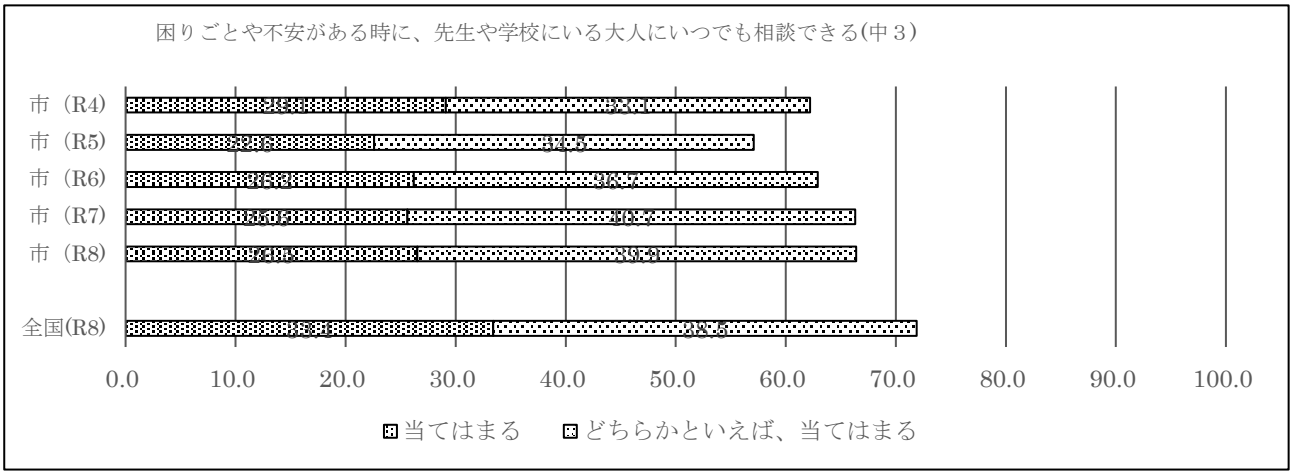


（5）【信頼関係】困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

【小学校】



【中学校】



（参考）第２次宇治市教育振興基本計画（第２期）における目標値

●目標値

	目標値 2029(令和11)年度
全国学力・学習状況調査における 小６国語 小６算数 中３国語 中３数学 の平均IRTスコア又は平均正答率 IRTとは、英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFLなど）で採用されているテスト理論。異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較でき、令和９年度調査より、国語・算数・数学で導入される。 IRTスコアとは、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準とした得点で表すもの。	国平均IRTスコア 500（※１）
学校の授業時間以外の勉強時間が平日１日当たり30分に満たない子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	小６：18.3%以下 中３：17.0%以下 （※２）
話し合い活動の定着割合 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思いますか。」に肯定的に回答した児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査）	小６：86.3% 中３：86.1% （※２）
課題解決型学習の定着割合 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。」に肯定的に回答した児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査）	小６：81.3% 中３：82.2% （※２）
ICT １日に複数回の授業でタブレットなどのＩＣＴ機器を活用している児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査）	小６：50.0% 中３：60.0%
ICT タブレットなどのＩＣＴ機器を使って学校の発表資料を作成することができる児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査）	小６：100% 中３：100%

※１　令和９年度調査より、国語・算数・数学がIRTスコアに変更されるため、目標値は基準となる国平均ＩＲＴスコア５００とする。

※２　その年の全国平均を目標値とする。目標値の数値は、参考値として令和６年度調査の全国平均を記載している。

※　第２次宇治市教育振興基本計画（第２期）より

１１　第２次宇治市教育振興基本計画（第２期）における現状値

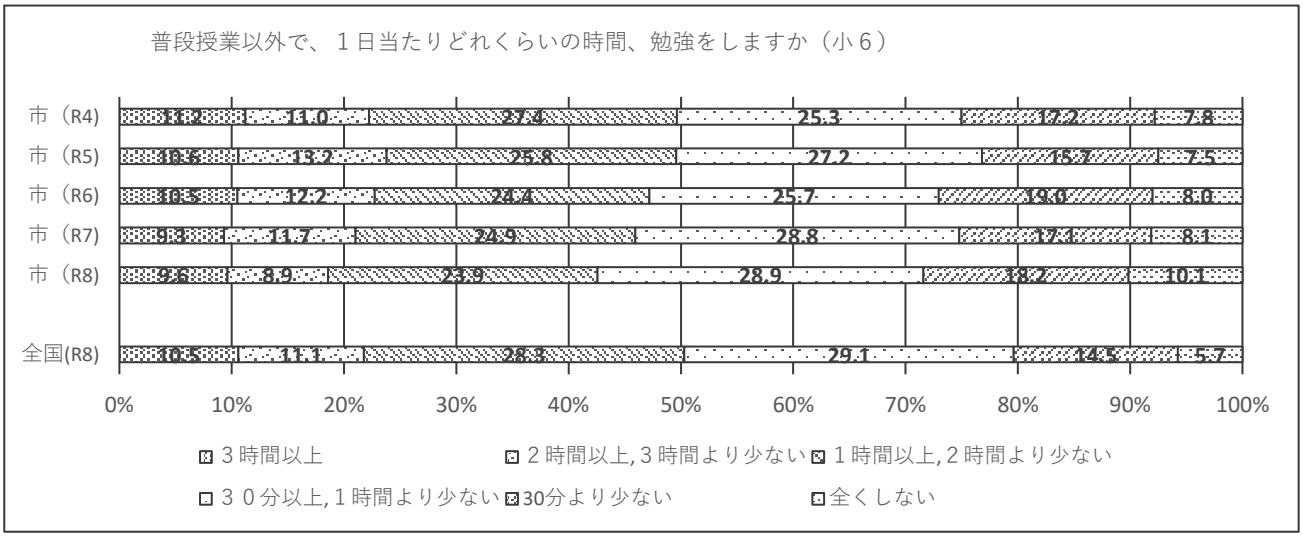
（1）教科に関する現状値

	科目	区分	平均正答率（%）	全国との差
小学校 ６年生	国　語	現状値	60.1	−0.8
		目標値	60.9	
	算　数	現状値	55.2	−1.2
		目標値	56.4	
中学校 ３年生	国　語	現状値	61.1	−2.8
		目標値	63.9	
	数　学	現状値	54.8	−2.2
		目標値	57.0	

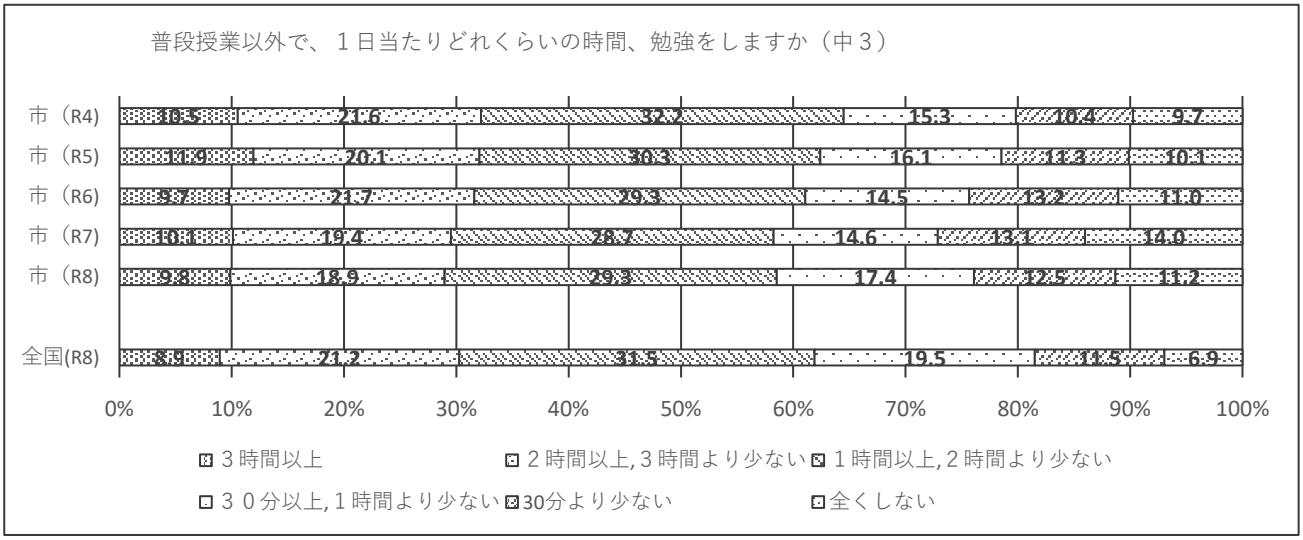
（2）質問項目に関する現状値

①　学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日あたりどれくらいの時間、勉強しますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

【小学校】

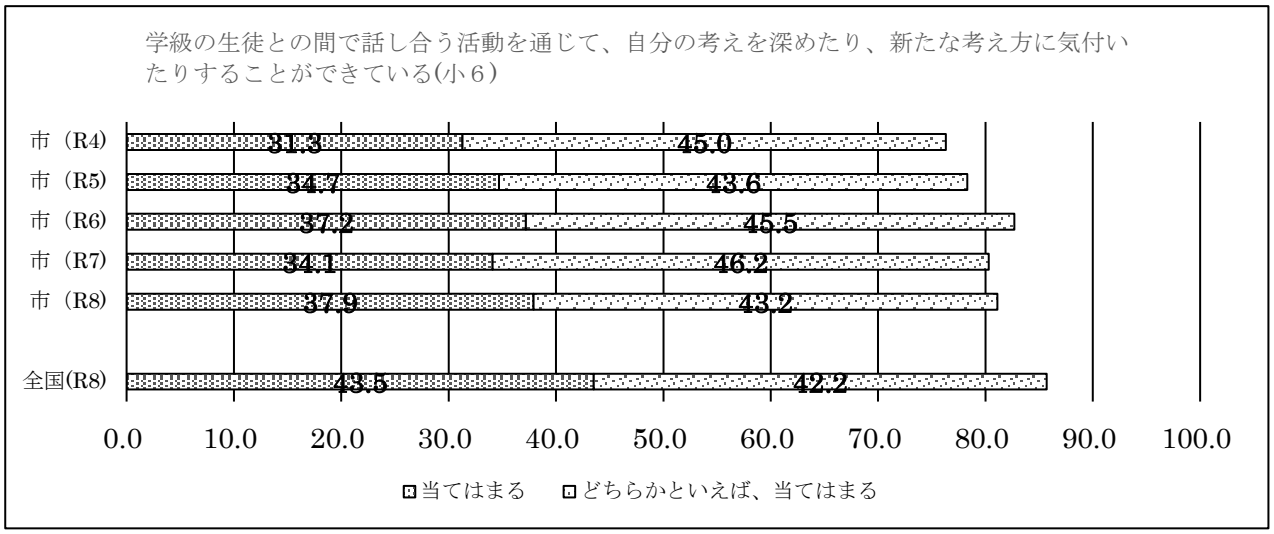


【中学校】

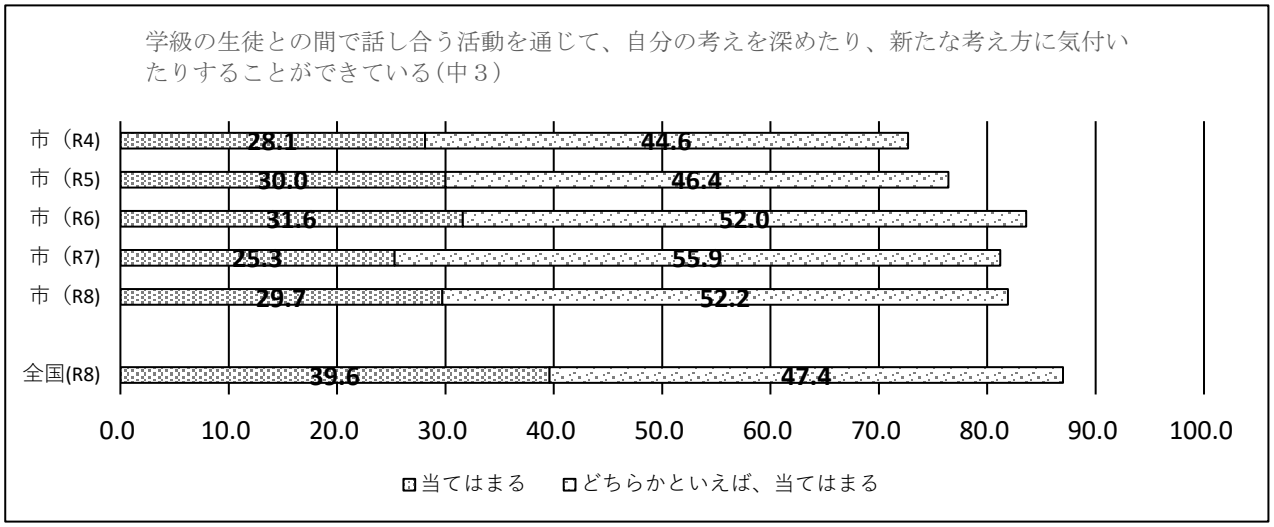


② 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていると思いますか。(再掲)

【小学校】

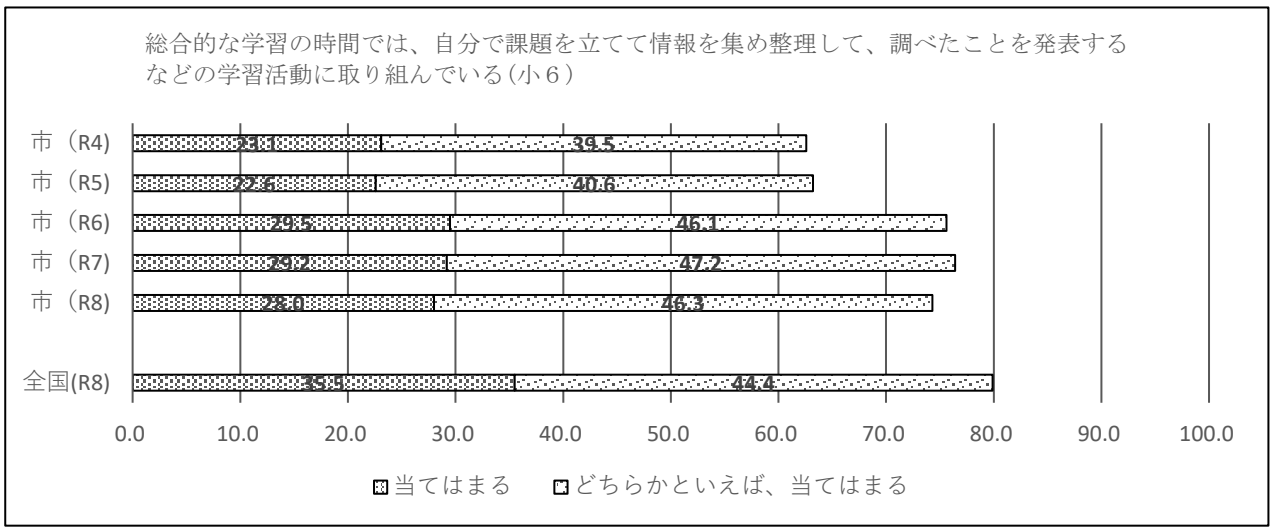


【中学校】

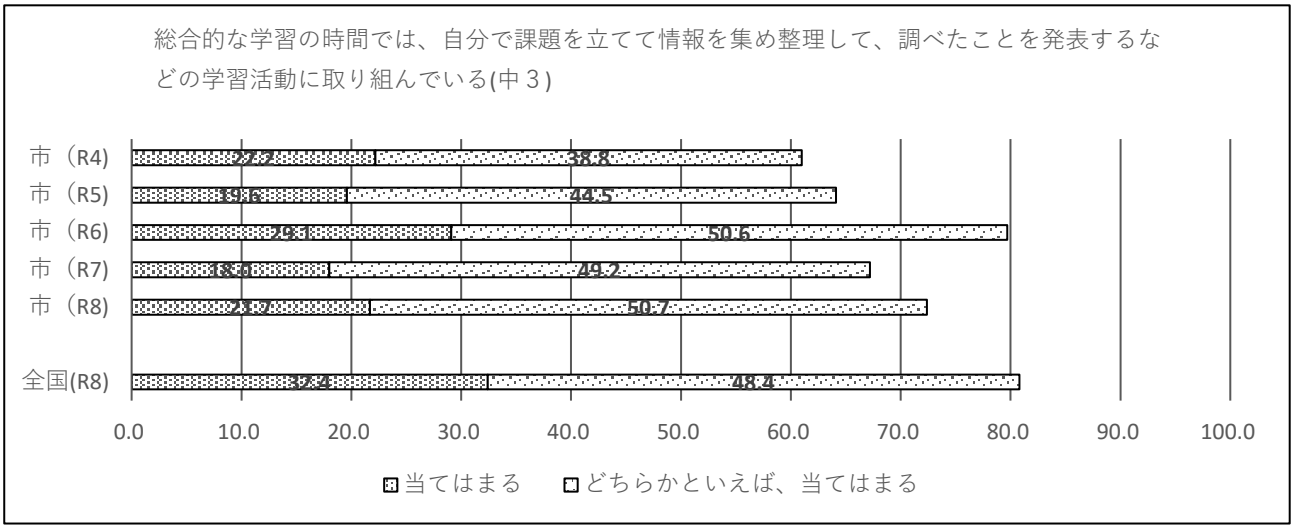


③ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。

【小学校】



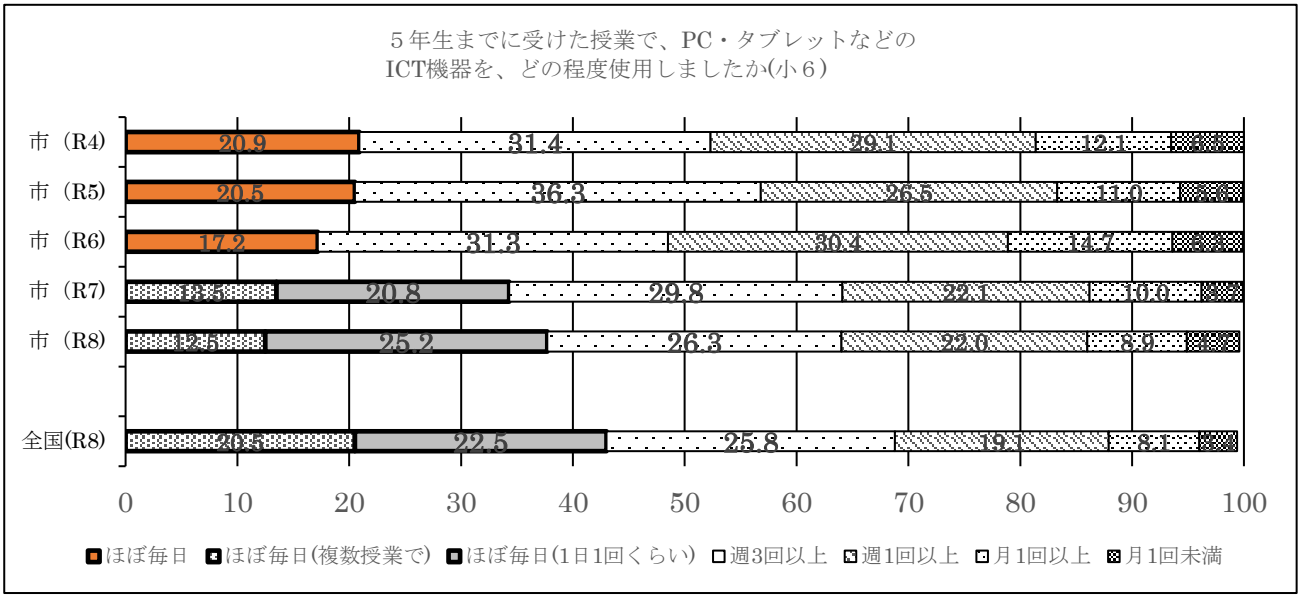
【中学校】



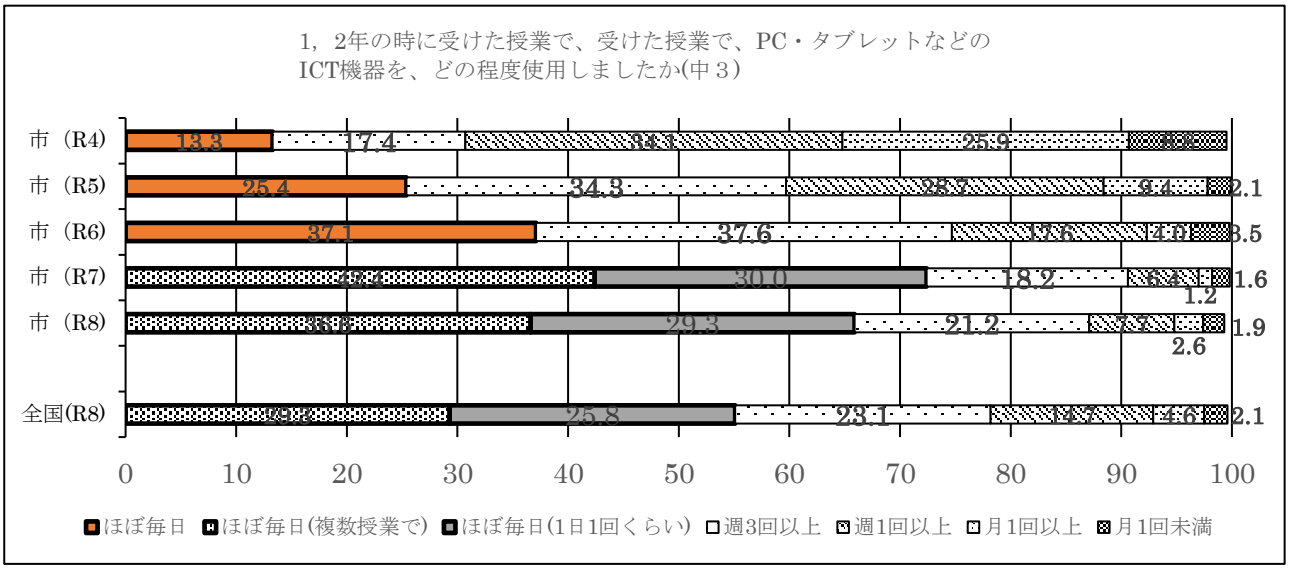
④　授業で、コンピュータなどのＩＣＴをどの程度使用しましたか。

※Ｒ７から「ほぼ毎日」が「ほぼ毎日（複数授業で）」と「ほぼ毎日（１日１回くらい）」に分割

【小学校】

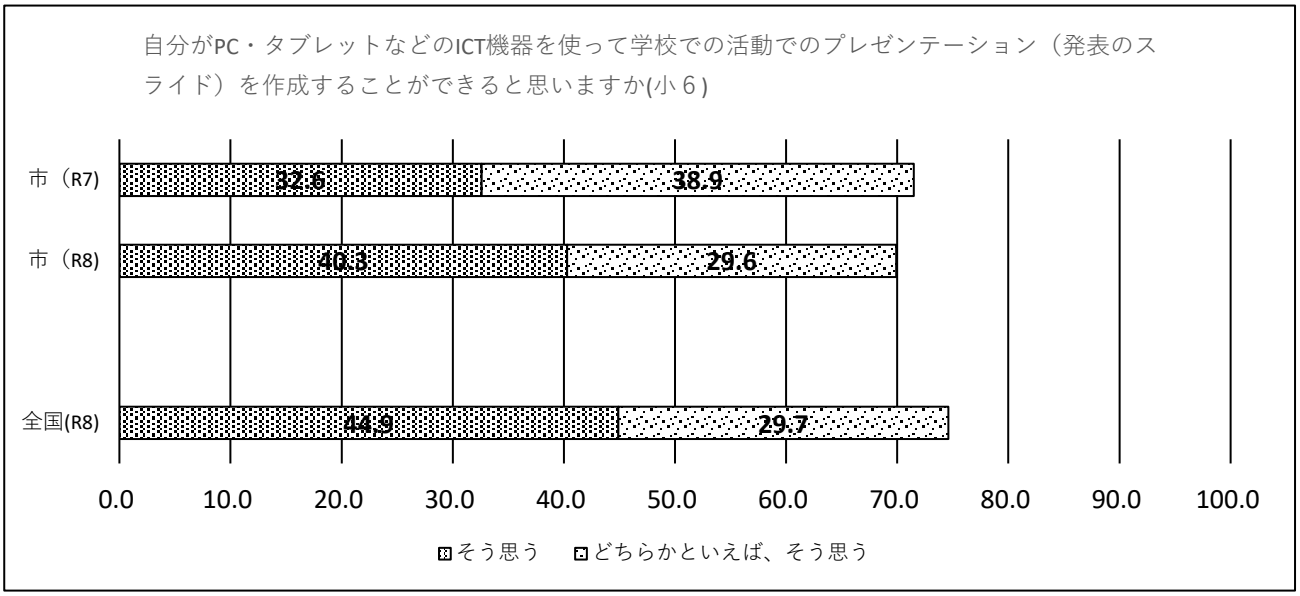


【中学校】

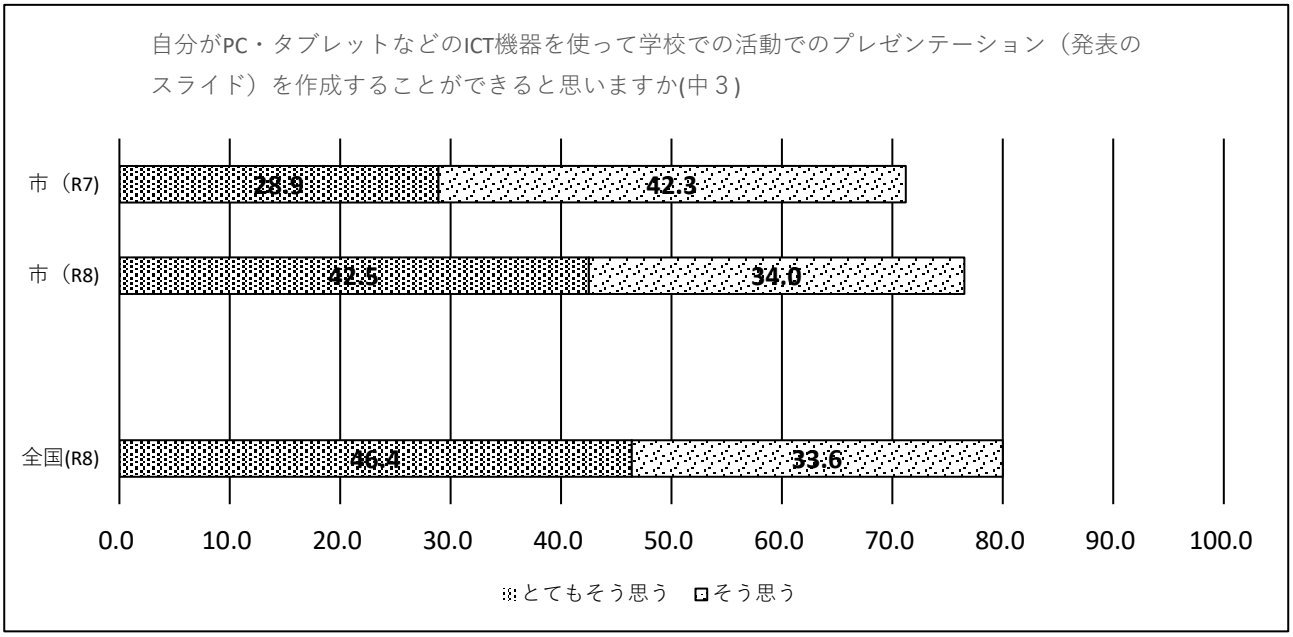


⑤自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でのプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。（※令和７年度より調査開始）

【小学校】



【中学校】



１２　課題のある問題

【小学校国語】

領域：書くこと　問題番号：２四

市平均：29.3　　全国平均：33.5　　差：-4.2

2　花山さんの学級では、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことにしました。花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」について調べ、文章を書いています。次の【花山さんの文章の一部】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【花山さんの文章の一部】

暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう

1　はじめに

夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いときは、そでがアみじかい方がすずしいのではないか。なぜ、長そでの服を着ているのかイふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。

2　どうして暑い日に長そでの服を着るのか

「生活と太陽」という本には、「日差しの強いときにはだを出して日焼けをすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。皮ふに直しゃ日光を当てない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ。

では、すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのだろうか。

3　すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのか

「熱中しょうかん境保健マニュアル２０２２」には、暑さをさける衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする。」、「えり元をゆるめて通気する。」と書かれている。また、「夏のくらし方」という本には、「服とはだの間に風が通るようにえり元やすそをゆったりさせると、すずしくなります。」と書かれている。〈図〉のように衣服の形や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそうだ。

〈図〉



では、衣服の形や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。

四　花山さんは、【集めた情報】をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを【花山さんの文章の続き】に書いています。あなたが花山さんなら、［　　］に入る内容を、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【花山さんの文章の続き】

4　すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごすことができそうだ。

また、

5　終わりに

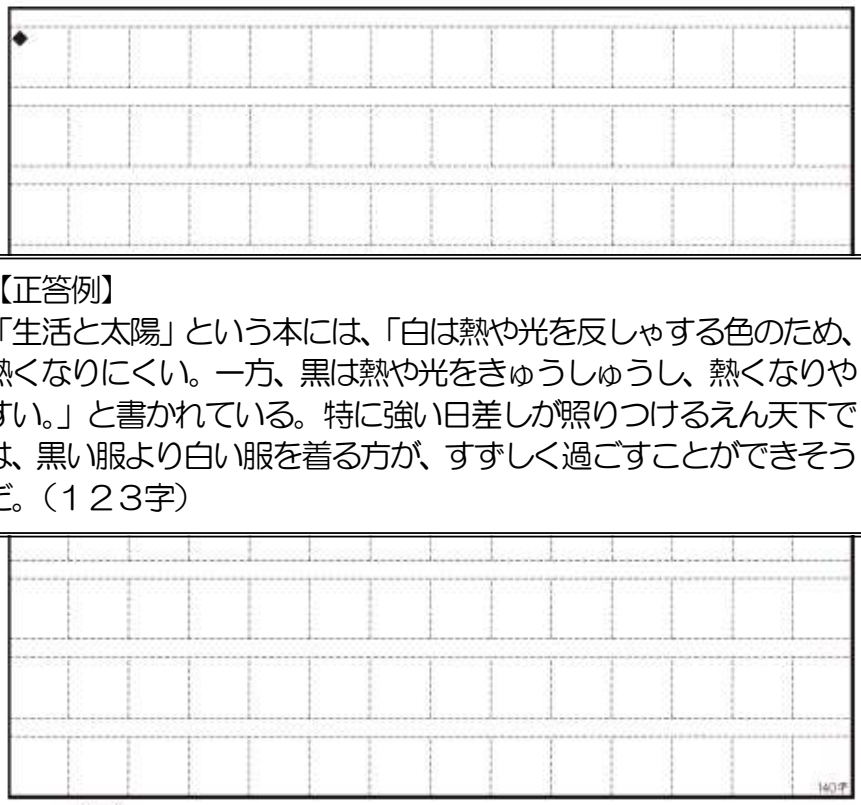
これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

（参考文けん）

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

〈条件〉
○ 【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。
○ ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかぎかっこ（「　」）でくくること。
○ ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。
○ 百四十字以内にまとめて書くこと。



【正答例】
「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照りつけるえん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそうだ。（１２３字）

※上の原稿（げんこう）用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。
解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から横書きで書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	９９	無解答
２四	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く	25.2	4.1	0.1	4.9	6.3	6.0	31.3		17.6	4.5
		31.5	4.7	0.0	5.2	6.4	6.1	27.2		15.1	3.8
		28.0	5.4	0.0	4.4	6.1	5.3	29.2		16.5	5.2

※１段目：宇治市の割合　２段目：京都府の割合　３段目：全国の割合

（正答の条件）
次の条件を満たして解答している。
① 【集めた情報】の中から、以下のことを抜き出して書いている。
　a　本の題名
　b　本文の一部の内容
② 抜き出した部分をかぎ（「　」）でくくっている。
③ 涼しく過ごせる衣服の色について考えたことを書いている。
④ 140字以内で書いている。

1	◎	条件①a、bの両方、②、③、④を満たしているもの
2	○	条件①a、bの両方、③、④を満たしているが、条件②は満たしていないもの
3		条件①a、bの両方、②、③は満たしているが、条件④は満たしていないもの
4		条件①a、bの両方、②は満たしているが、条件③は満たしていないもの　＊条件④を満たしているかどうかは不問とする。
5		条件①a、②、③は満たしているが、条件①bは満たしていないもの　＊条件④を満たしているかどうかは不問とする。
6		条件①b、②、③は満たしているが、条件①aは満たしていないもの　＊条件④を満たしているかどうかは不問とする。
7		条件③は満たしているが、条件①a、b、②は満たしていないもの　＊条件④を満たしているかどうかは不問とする。
99		上記以外の解答
0		無解答

【解答類型７の例】

○白は雪の色であり、冷たい印象がある。また、白色や青色の衣服は着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせることができる。(64 字)

○黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすいため、反しゃする白色の服を着るとよい。また、うすい青はさわやかに見え、着ている人だけでなく周りの人にもすずしさを感じさせるため、白色や青などのさわやかな色の服を着ると、長そででもすずしく過ごすことができる。(124 字)

○緑色の衣服は森や植物を連想させ、すずしく過ごすことができます。また、赤やオレンジ、茶色などは暑そうに見えるので、すずしく過ごすことがむずかしそうだ。(74 字)

【解答の分析】

①【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、抜き出して書いていない。引用して書く必要があると考えることができず、【集めた情報】の内容を自分の考えのように書いている

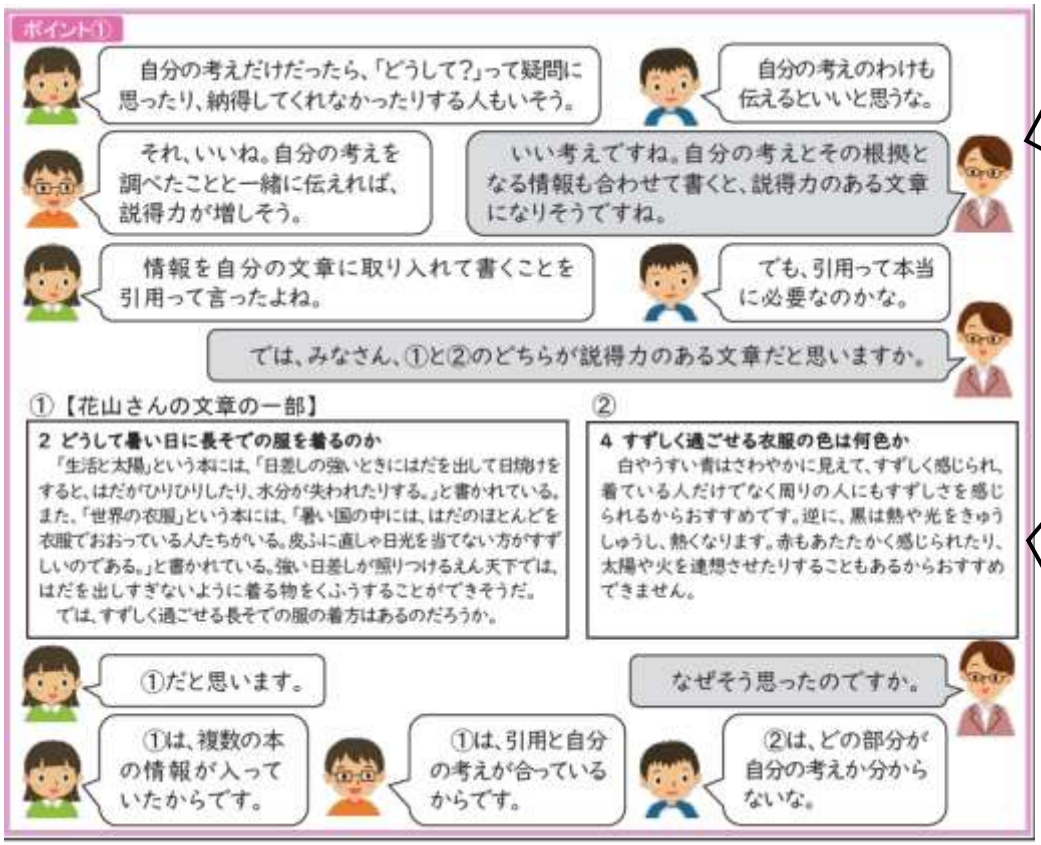
②【集めた情報】の中から本文の一部を用いて書いているものの、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にし、区別して書くことができなかった児童がいたと考えられる。

③【集めた情報】の内容を基に自分が考えたことだけを書いている。

☆　課題に対する学習のポイント

○　学習する目的・意図・よさ（引用のよさ）をしっかりと捉えさせる

→【宇治市指標】全ても子どもたちの「やりたい」「必要」を活かした単元構想になっています。

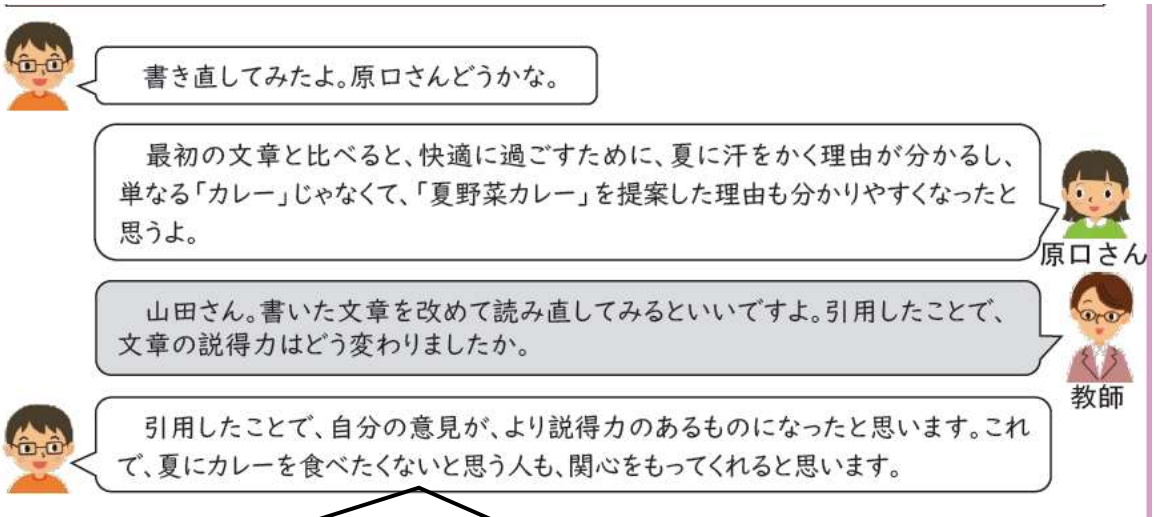


なぜ「引用」する必要があるのか、なぜ「引用」を学ぶのか、目的や良さをとらえる学習活動を大切にする。

適切に引用し、自分の考えと書き分けられている文章とそうでない文章を読み比べて考えるなど、児童が考えを持てるような具体的な手立てが必要。

○作成した文章を適宜振り返り、学習したよさ（引用のよさ）を実感できるようにする

→【宇治市指標】自分の学びを振り返る活動を大切にしています。



学習の導入時で確認した「引用するときに大事なこと」を活用して自他の文章を振り返らせる機会を設けることが重要。
その際、書き直した文章を最初に書いた文章と比べる機会を設け、引用することのよさを実感できるようにすると効果的。作成した文章をクラウド上に適宜保存して見比べるなどの方法が考えられる。

【中学校国語】

領域：書くこと　　問題番号：３四

市平均：40.2　　全国平均：45.0　　差：-4.8

3　石井さんは、国語の時間に、文書作成ソフトを使って随筆を書いています。次の**【石井さんが書いている随筆】**を読んで、あとの問いに答えなさい。（1から5は、段落の番号を表します。）

【石井さんが書いている随筆】

1　私には趣味がある。休日になると、私は自転車のハンドルを握りしめ、目的地へ向かう。そして、その日の気持ちに合った景色を見付けては、スケッチブックに写しとる。私の趣味は絵を描くことだ。相棒であるスケッチブックは、今使っているもので四冊目になる。今までに描いた絵を見返すと、その時々の私の気持ちを相棒が教えてくれる。これも絵を描く楽しみの一つだ。

2　三月のある日曜日。その日は、朝から気が重くて、朝食をとっても元気が出なかった。それでも、私は自転車で十五分の大きな公園に向かった。しかし、そんな日に限って、強い向かい風が私に吹き付ける。坂のない平たんな道のりが、とても長く感じられる。何度も引き返そうかと思ったが、なんとか公園にたどり着いた。

3　休日を過ごす人々で公園はにぎわっていた。そんな姿を見ると、絵を描こうという気持ちが自然とわいてきた。私はベンチに腰掛け、鉛筆を走らせる。公園で休日を楽しむ人々の姿をスケッチブックに写しとった。

4　帰りは、進む方向が変わり、私を苦しめたあの向かい風が追い風になった。風が私の背中を押して、自転車はぐんぐん進んでいく。私の気持ちもどんどん明るくなって、［　　］ペダルをこいだ。道の途中、横風や向かい風になるときもあるが、気にならなかった。「もう一枚描いてから帰ろうかな。」家の近所の小さな公園で自転車を止めた。

5　同じ風でも、自分の向き合い方が変わると感じ方も変わることを知った。どんなことも自分次第なのだ。この日描いた二枚の絵には、そんな私の気持ちが表れている。

四　石井さんは、自分が書いた文章について、山田さん、田中さんと交流し、この文章のよい点や改善点と、それを踏まえた今後随筆を書くときに生かしたいことをメモにまとめています。あなたならどのように書きますか。【1段落についての交流場面①】をもとにした【メモ①】の書き方を参考にしながら、【1段落についての交流場面②】をもとにして【メモ②】を書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【1段落についての交流場面①】

石井　1段落で、絵を描くことが趣味だということを印象付けるように工夫したのですが、どうでしたか。

山田　最初の「私には趣味がある。」という一文で、趣味は何だろうと知りたくなり、先を読みたくなりました。

田中　私もそう思いました。

【1段落についての交流場面②】

石井　スケッチブックを「相棒」と表現したことはどうですか。

田中　「その時々の私の気持ちを相棒が教えてくれる」とスケッチブックを人のように表現しているのが印象に残りました。

山田　スケッチブックは今までの自分の気持ちが詰まっているものだから、「相棒」よりふさわしい比喩もあるのではないかと思いました。

【メモ①】

〈よい点や改善点〉

冒頭で「私には趣味がある。」と趣味が何かを明かさないことによって、読み手に先を読みたいと思わせることができた。

〈生かしたいこと〉

随筆を書くときは、書き出しの工夫をする。

【メモ②】

〈よい点や改善点〉

〈生かしたいこと〉

【正答例】

〈よい点や改善点〉

スケッチブックを「相棒」と表現したのはよかった。

しかし、他にもふさわしい言葉があったかもしれない。

〈生かしたいこと〉

読み手の印象に残るように比喩を用いる。

その際、選んだ言葉がふさわしいかどうかを考える。

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	９９	無解答
３四	書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く	40.2	10.3	16.0						22.4	11.1
		46.9	10.1	16.6						17.7	8.7
		45.0	9.4	17.0						17.9	10.7

※１段目：宇治市の割合　２段目：京都府の割合　３段目：全国の割合

（正答の条件）
次の条件を満たして解答している。
① ＜よい点や改善点＞の欄に、「相棒」と表現したことについてのよい点や改善点について、【１段落についての交流場面②】の内容を基にして書いている。
② ＜生かしたいこと＞の欄に、＜よい点や改善点＞の欄に書いたことを踏まえて、比喩の用い方などについて、今後随筆を書くときに生かしたいことを書いている。

1	◎	条件①、②を満たして解答しているもの
2		条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの
3		条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの
９９		上記以外の解答
0		無解答

【解答類型３の例】

○〈よい点や改善点〉スケッチブックを「相棒」という言葉で表現した。
〈生かしたいこと〉よりふさわしい比喩を見つけ、気持ちが伝わるように工夫する。

○〈よい点や改善点〉「私」の心情について語っていたり、背景から想像することがしやすいので、読み手に共感してもらいやすくすることができた。
〈生かしたいこと〉随筆を書くときは、心情がより読み手に伝わるような表現になるように工夫する。

【解答の分析】

〈生かしたいこと〉について、比喩の用い方など、今後随筆を書くときに生かしたいことを書くことはできているが、【１段落についての交流場面②】の内容を基にして〈よい点や改善点〉を書くことができていない。

☆　課題に対する学習のポイント

○　読み手からの助言などを踏まえて、自分が書いた文章のよい点や改善点を書き手自身が見いだす【共有】という学習課程を重視する。

【共有】は「推敲」とは異なり、書き終えた文章について、読み手からの感想や助言を基に、自分の文章を振り返り、次の書く活動にどのように生かすかを考えることがポイントである。また、「共有」する際の視点については、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」の学習過程を踏まえ、当該学年で重点としている内容を中心に取り上げることが大切である。

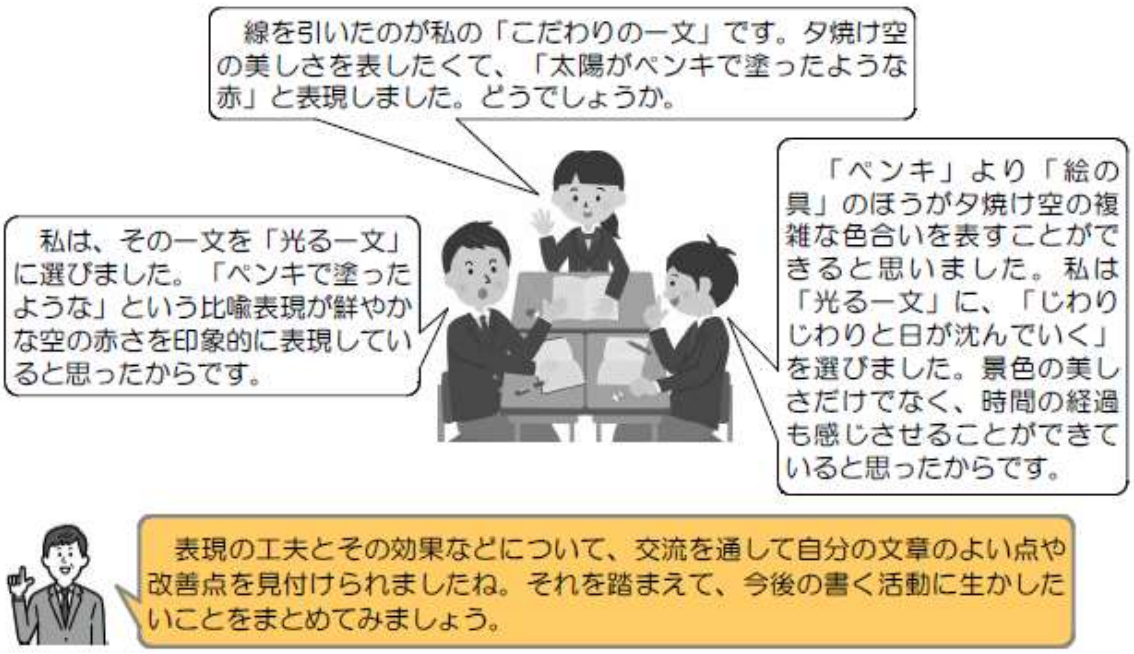
→【宇治市指標】全ても子どもたちの「やりたい」「必要」を活かした単元構想になっています。

→【宇治市指標】全ての子どもたちが、ともに高め合う協働的な学びを大切にしています。

〔グループで話し合っている場面の例〕

〔話し合っている随筆の一部〕

そのとき坂の上から見た夕焼け空は、まるで太陽がペンキで塗ったような赤だった。ずっとこの空を見ていたいと強く思った。そうしている間にもじわりじわりと日が沈んでいく。



「共有」の場面では、よい点や改善点を見いだす視点として、学習過程を踏まえ、当該学年で重点としている内容を中心に取り上げることが重要。

書き手の目的と意図を理解した上で、単なる印象ではなく、具体的な記述を取り上げて助言などをすることができるように、読み手にも適切な指導をすることが重要である。

【小学校算数】

領域：数と計算　問題番号：３（３）

市平均：39.1　全国平均：44.0　差：-4.9

３

たいがさんとひまりさんは、１から９までの数字が書かれた９枚（まい）のカードを使って遊びます。

1	2	3	4	5	6	7	8	9

カードを裏返（うら）しにして、１人３枚ずつカードを引いて数をつくります。

(3)　たいがさんたちは、**【ルール３】**で遊ぶことにしました。

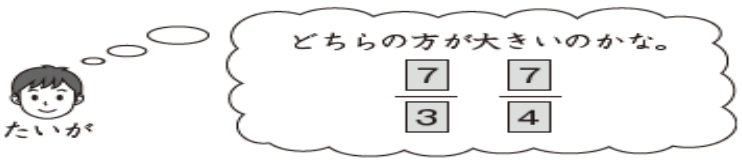
【ルール３】

①引いたカード３枚のうち、２枚を □ に当てはめて分数をつくります。

$$\frac{\square}{\square}$$

②大きい数をつくった方が、勝ちです。

たいがさんは、3　4　7　を引きました。



$\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ では、どちらの方が大きいですか。下の **ア** から **ウ** までの中から１つ選んで、その記号を書きましょう。

また、その記号を選んだわけを、数や言葉を使って書きましょう。

ア　$\frac{7}{3}$ の方が大きい。

イ　$\frac{7}{4}$ の方が大きい。

ウ　$\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ の大きさは等しい。

【解答】

【記号】　ア

【わけ】（例）　$\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ を通分すると、$\frac{7}{3}$ は $\frac{28}{12}$、$\frac{7}{4}$ は $\frac{21}{12}$ なので、$\frac{7}{3}$ の方が大きいです。

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	１０
３（３）	７／３と７／４のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く	21.4	1.9	7.5	1.6	6.4	1.1	3.8	6.8	13.3	0.8
		26.2	1.8	8.2	1.0	7.2	1.0	4.3	4.9	12.3	0.9
		23.9	1.8	8.1	1.3	7.8	1.0	4.3	5.8	13.2	0.8
		１１	１２	１３	１４	１５	１６	１７	１８	９９	無解答
		0.5	0.2	11.5	16.9	2.3				1.1	3.1
		0.3	0.3	10.1	15.5	3.1				0.7	2.2
		0.4	0.3	8.2	15.5	3.7				0.8	3.2

※１段目：宇治市の割合　２段目：京都府の割合　３段目：全国の割合

（正答の条件）
記号を　ア　と選び、次のA、B、C、Dについて、いずれかの方法で①、②の全てを書いている。
A【通分を用いた大小比較】
A①　７／３と２８／１２が等しいことを表す数や言葉
A②　７／４と２１／１２が等しいことを表す数や言葉
B【分数を小数で表した大小比較】
B①　７／３と２．３３…が等しいことを表す数や言葉
B②　７／４と１．７５が等しいことを表す数や言葉
C【仮分数を帯分数で表した大小比較】
C①　７／３と［２と１／３］が等しいことを表す数や言葉
C②　７／４と［１と３／４］が等しいことを表す数や言葉
D【分子が等しいことに着目した大小比較】
D①　７／３と７／４の分子が等しいことに着目していることを表す数や言葉
D②　７／３と７／４の分母に着目して、分母が小さい方が数が大きいことを表す数や言葉

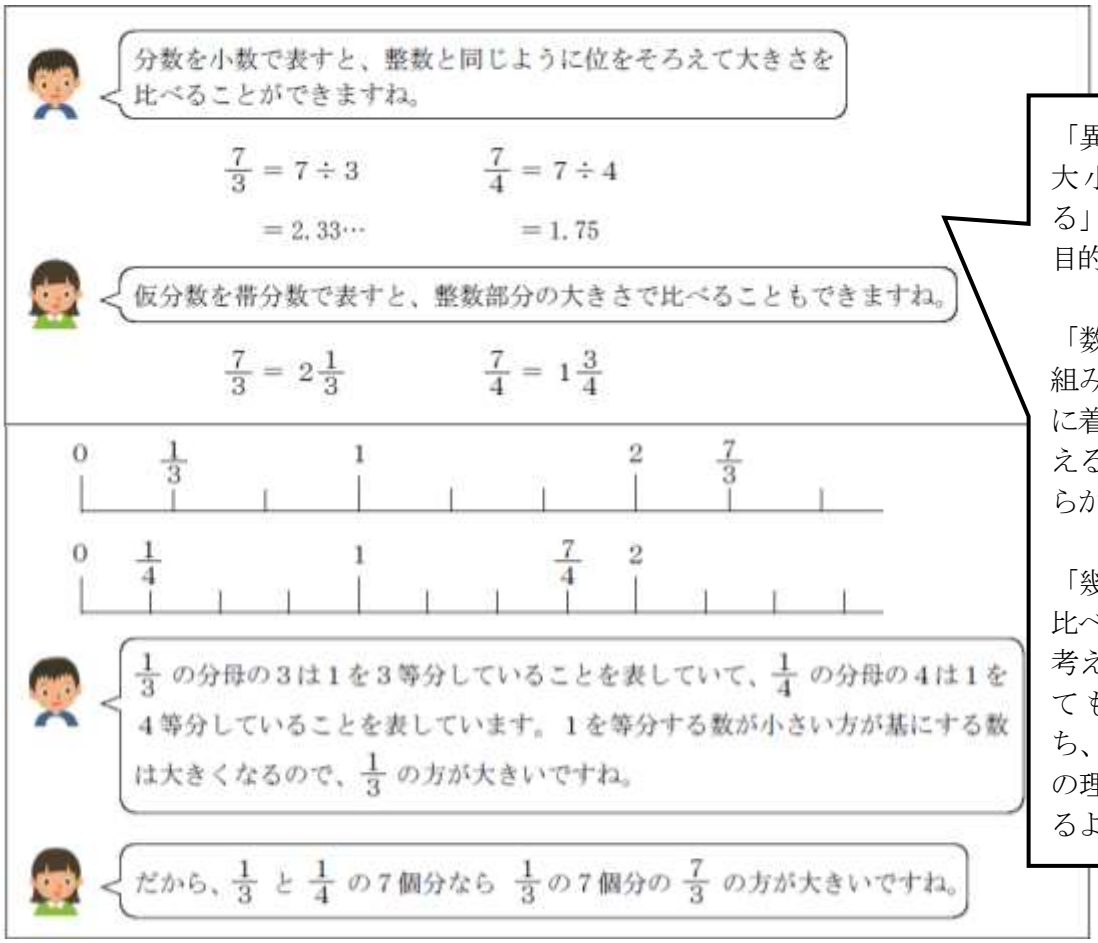
		記号	わけ
1	◎	ア　と解答	A①、A②の全てを書いているもの
2			A①又はA②を書いているもの 通分について書いているもの
3	◎		B①、B②の全てを書いているもの
4			B①又はB②を書いているもの 分数を小数で表すことについて書いているもの
5	◎		C①、C②の全てを書いているもの
6			C①又はC②を書いているもの 仮分数を帯分数で表すことについて書いているもの
7	◎		D①、D②の全てを書いているもの
8			D①又はD②を書いているもの 分子が等しいことや分母の大小関係について書いているもの
9			類型１から類型８以外の解答 無解答
１０		イ　と解答	通分について書いているもの
１１			分数を小数で表すことについて書いているもの
１２			仮分数を帯分数で表すことについて書いているもの
１３			分子が等しいとき、分母が大きい方が数が大きくなることについて書いているもの
１４			類型１０から類型１３以外の解答 無解答
１５		ウ　と解答	
９９		上記以外の解答	
０		無解答	

解答類型１３の例
○分子が等しいとき、分母が大きい方が、数が大きくなることについて書いているもの

解答の分析
　このように解答した児童は、 7/4 の方が大きいと誤って判断しており、分子が等しいときの分数の大小について、分母に着目することはできているが、分母が大きい方が数が大きいと誤って捉えていると考えられる。分母は１を何等分しているかを表していること、分子はその単位分数が幾つあるかを表していることなどの分数の表し方についての理解に課題があると考えられる。

☆　課題に対する学習のポイント

○「何のために」、「どのように」考えるのかを明らかにして学習活動を展開する
　　「何のために」→「異分母の分数の大小を判断できるようになるために」
　　「どのように」→「数の表し方の仕組みや分数の意味に着目して」
　　「幾つかの方法を比べてみて」
→【宇治市指標】全ても子どもたちが「気付く」「考える」「表現する」活動を確保します。
「何のために」「どのように」活動するのかを明らかにしています。



「異分母の分数の大小を判断できる」という考える目的を捉えさせる

「数の表し方の仕組みや分数の意味に着目して」等、考えるポイントを明らかにする。

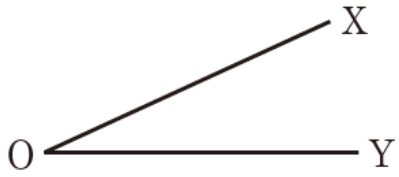
「幾つかの方法を比べてみよう」等、考える方法についても手立てをうち、分数についての理解を深められるようにする。

【中学校数学】

領域：図形　　問題番号：８（２）

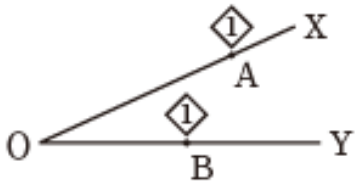
市平均：39.6　全国平均：46.1　差：-6.5

8　下の**手順**で、鋭角である∠ＸＯＹの２倍の大きさの角が作図できます。

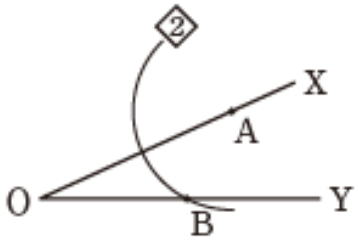


手順

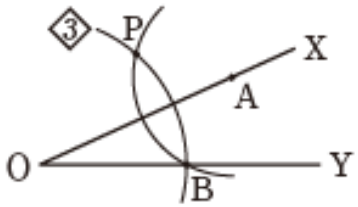
◇1　辺ＯＸ上に適当な点Ａ、辺ＯＹ上に適当な点Ｂをとる。



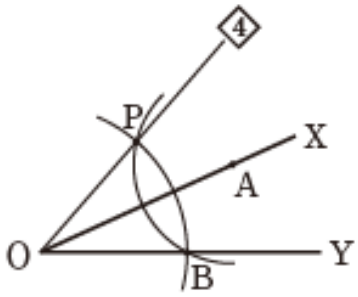
◇2　点Ａを中心として半径ＡＢの円をかく。



◇3　点Ｏを中心として半径ＯＢの円をかき、◇2 の円との交点をＰとする。



◇4　直線ＯＰをひく。



上の**手順**で作図した∠ＰＯＢは、∠ＸＯＹの２倍の大きさになります。

（２）前ページの**手順**で作図した∠ＰＯＢが∠ＸＯＹの２倍の大きさであること、つまり∠ＡＯＢ＝∠ＡＯＰであることを証明します。**図１**は、**手順**の ④ の図の点Ａと点Ｂ、点Ａと点Ｐを結んだ図です。**図１**において、ＡＢ＝ＡＰ、ＯＢ＝ＯＰは**手順**から直接わかることです。これらを仮定とし、次のことがらを証明します。

図１

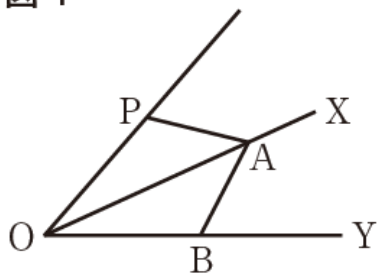


図１において、
ＡＢ＝ＡＰ、ＯＢ＝ＯＰ　ならば　∠ＡＯＢ＝∠ＡＯＰ　である。

上のことがらが成り立つことは、△ＡＯＢ≡△ＡＯＰを示すことで証明できます。下の**証明**を完成しなさい。

証明

△ＡＯＢと△ＡＯＰにおいて、

合同な図形の対応する角は等しいから、
∠ＡＯＢ＝∠ＡＯＰ

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
8（2）	図１において、ＡＢ＝ＡＰ、ＯＢ＝ＯＰならば∠ＡＯＢ＝∠ＡＯＰであることを、三角形の合同を基にして証明する	28.3	9.7	0.0	1.7	7.5	0.9	5.4	3.7	7.7	0.5
		35.8	9.5	0.0	0.8	7.0	1.3	5.8	4.3	6.9	0.6
		36.7	8.7	0.0	0.8	7.0	0.9	4.8	4.9	6.6	0.5
		11	12	13	14	15	16	17	18	99	無解答
										7.9	26.8
										7.3	20.6
										7.0	22.2

(正答の条件)
次の(a)、(b)、(c)、(d)とそれぞれの根拠を記述し、証明しているもの。
なお、ここで根拠として求める記述は、正答例に記述されている程度のものとする。
(a) ＡＢ＝ＡＰ
(b) ＯＢ＝ＯＰ
(c) ＯＡ＝ＯＡ　または　ＯＡ共通
(d) △ＡＯＢ≡△ＡＯＰ

1	◎	(a)、(b)、(c)、(d)とそれぞれの根拠を記述しているもの
2	○	(a)、(b)、(c)、(d)について記述しているが、表現が十分でないもの（(a)、(b)、(c)、(d)の根拠が抜けていたり、根拠の表現が十分でなかったりするものを含む）
3	◎	解答類型１、２以外で、正しく証明しているもの
4	○	解答類型３について、表現が十分でないもの（根拠が抜けていたり、根拠の表現が十分でなかったりするものを含む）
5		仮定として、∠ＡＯＢ＝∠ＡＯＰを用いているもの
6		解答類型１～４について、証明に誤りを含んでいるもの
7		(a)、(b)、(c)について記述しているもの
8		(a)、(b)、(d)について記述しているもの
9		(a)、(b)について記述しているもの
１０		(d)のみを記述しているもの
９９		上記以外の解答
０		無解答

解答類型５の例

○仮定より、
ＯＢ＝ＯＰ ……①
∠ＡＯＢ＝∠ＡＯＰ ……②
共通な辺だから、
ＯＡ＝ＯＡ ……③
①、②、③より、２組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、△ＡＯＢ≡△ＡＯＰ

解答の分析

このように記述した生徒は、結論である「∠ＡＯＢ＝∠ＡＯＰ」を証明の根拠として用いたと考えられる。作図によってできた図形について、見いだした事柄が成り立つことを、筋道を立てて考え、証明することに課題がある。

☆　課題に対する学習のポイント

○問題解決の過程や結果を基に統合的・発展的に考察できるようにする。

図形の性質を考察する場面では、観察や操作、実験などの活動を通して、成り立つと予想される事柄を見いだし、その事柄が成り立つことを証明できるようにするとともに、証明を振り返って共通点を見いだすなど、統合的・発展的に考察できるように指導することが大切

問題発見・解決の過程

Ⅰ **手順**を確認し、問題を見いだす。
「**手順**で２倍の大きさの角が作図できるのはなぜだろうか。」

Ⅱ ２倍の大きさの角が作図できていることを証明する。

Ⅲ **方法**を確認し、問題を見いだす。
「**方法**で２倍の大きさの角が作図できるのはなぜだろうか。」

Ⅳ ２倍の大きさの角が作図できていることを証明する。

Ⅴ 問題解決の過程や結果を振り返り、統合的・発展的に考察する。

【宇治市指標】全ても子どもたちの「やりたい」「必要」を活かした単元構想になっています。

【宇治市指標】「何のために」「どのように」活動するのかを明らかにしています。

【宇治市指標】自分の学びを振り返る活動を大切にしています。

１３　結果概要

（1）教科に関する調査結果（p.2-3）

①国語科

小学校において、平均正答率の全国との差について改善傾向が見られ、中学校においては平均正答率の全国との差について、前年度より差が開いた。

②算数・数学科

小学校において、平均正答率の全国との差について前年度より差が開き、中学校においては平均正答率の全国との差について、改善傾向がみられる。

（2）授業改善に関わる質問調査結果（p.4-7）

①「主体的に学習」

肯定的な回答の割合について、小・中学校ともに、全国を下回っており、経年変化においても減少傾向が見られる。

②「発表工夫」

肯定的な回答の割合について、小学校の経年比較において増加傾向が見られ、全国を上回っているが、中学校において前年度と比べわずかに増加しているものの、全国を下回っている。

③「話し合う活動」

肯定的な回答の割合について、 小・中学校とも、経年比較において増加傾向が見られるものの、全国を下回っている。

④「まとめる活動」

肯定的な回答の割合について、小学校の経年比較において減少傾向が見られるものの、中学校において前年度と比べわずかに増加しているが、小・中学校とも全国を大きく下回っている。

⑤「信頼関係」

肯定的な回答の割合について、中学校の経年比較において増加傾向が見られるものの、小・中学校とも全国を下回っている。

（3）第２次宇治市教育振興基本計画における質問項目に関する調査結果（p.8-12）

小・中学校とも、授業時間以外の学習時間を問う質問項目に、「30 分より少ない」と回答している児童生徒の割合が全国平均よりも依然多い状況にある。

ICT 機器の使用頻度を問う質問項目では、小学校においては、「ほぼ毎日」の回答割合が前年度に比べ大きく増加した。中学校においては、「ほぼ毎日」の回答割合が減少したものの、全国平均を上回るなど、活用が進んでいる状況である。

１４　今後の対応

（1）子どもたちの学力向上に向けた、主体的・対話的で深い学びの充実を図るため、質問調査の結果を踏まえ、次に示す向上目標を意識した授業づくりを進め、教職員自らが実践を振り返り、指導力の向上を図るとともに、各校で組織的な学力向上につなげる研究体制の構築を図る。

①「『やりたい』『必要』を活かした単元構想」

②「『気付く』『考える』『表現する』活動の確保と一人ひとりに応じた工夫と手立て」

③「ともに高め合う協働的な学び」

④「自分の学習を振り返る活動」

（2）主体的・対話的で深い学びの充実の基盤である「信頼関係」の項目に課題が見られることから、教職員一人ひとりが、児童生徒の個性や多様性を認め、学習の環境や手立て・支援の方法を工夫するという宇治市インクルーシブ教育の指標の考え方に立ち、児童生徒の悩みや困り感を真剣に受け止めるとともに、苦手なことがある児童生徒の努力を認めることで、安全・安心な風土を醸成し、児童生徒の共感的な人間関係の構築を目指す。

（3）ICT の利活用については、子どもの適切な ICT 活用能力の向上につながるよう、各校の児童生徒の弱み・強みを把握・分析し、可視化された具体的なデータに基づいて、各校の具体的な取組を推進する。